

平成27年度 各種調査結果等を活用した学力向上の取組事例

事務所名	県南教育事務所	学校名	奥州市立岩谷堂小学校	TEL	0197-35-1924
------	---------	-----	------------	-----	--------------

確かな学力保障に向けた「学校における組織的な対応」の強化

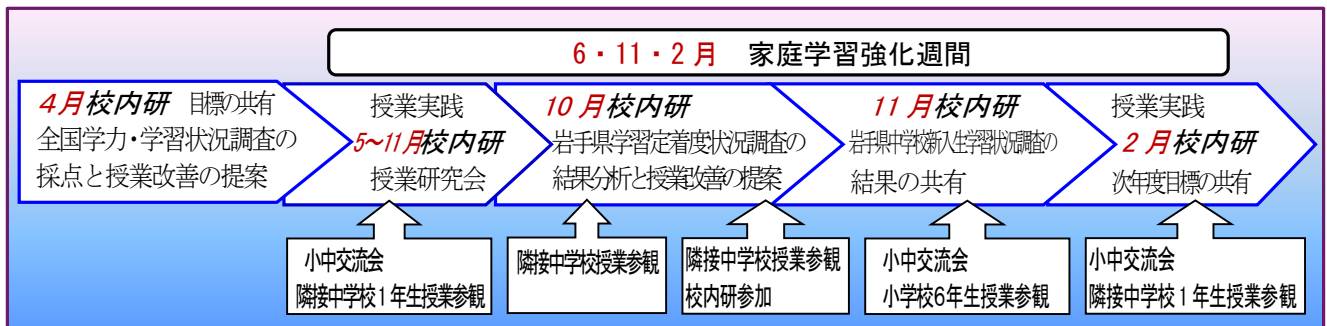
【今年度の目標】

- 小5算数における「数学的な考え方」の観点、「数量関係」の領域の問題の正答率が県平均を上回るようにする。
- 確かな学びに向けて、児童生徒質問紙「見通し」と「振り返り」の1番の回答（積極的肯定）を各教科とも増加させる。

【組織的な対応を図る上で工夫した点】

- 1 各種調査結果等を全職員で採点したり分析したりし、授業改善に結び付けた。
- 2 学力向上加配、少人数指導加配等による学力向上担当の役割を明確にした。
- 3 小中連携し、中学校と学習について交流する場を設定した。

学力向上に係る1年間の流れ



【具体的な取組】

- 1 校内研究会における各種調査結果等を活用した授業力向上の取組
- 2 学力向上担当、少人数指導担当による取組
- 3 中学校との授業参観・交流会の場の設定による小中連携の取組

1 確かな学力保障に向けて、担任による児童の見取りや各種調査結果による実態把握を受け、校内研究に次のような手立てを組んだ。

(1) 4月 研究主題と手立て 今年度の目標の確認(Plan)

- 研究主題「自らの考えをもち、響き合う児童の育成」に向けて、国語科・社会科・算数科・理科・生活科・特別支援教育を重点的取組に位置付け、年度当初に目標及び学習のルールなどを共通確認する場を設定する。授業研究会においては、児童の実態把握に調査結果のデータを活用し、単元の指導計画を立案する。

- 次の観点を全校で共通理解して授業に取り組み、授業研究会において検討する。

【算数科の例】

- ・ 式を、計算の答えを求める手段としてだけでなく、ある場面での数量についての事柄や、数量関係を表現するものとしてとらえさせるために、式の意味を場面と結び付けて説明したり、文字を用いて式に表現したりする活動を重視する。
- ・ 言葉、数、式、図、表、グラフなど数学的な表現を適切に用いて、かいたり、話したりする活動を充実させ、数学的な思考力・表現力を高める。(H27「岩手県学校教育指導指針」より)

言語活動の充実・算数的活動(低学年)の充実・説明力や記述力の向上をねらった指導(作業や手順の説明ではなく考え方の説明)

- 校内研究の手立てとして「児童が、学習の流れを見通し、学びを振り返り、次の学習への意欲をもつ『課題設定』と『評価活動』」を設定し、児童が、課題解決に向けて自ら学び、わかったことを実感する授業に取り組む。

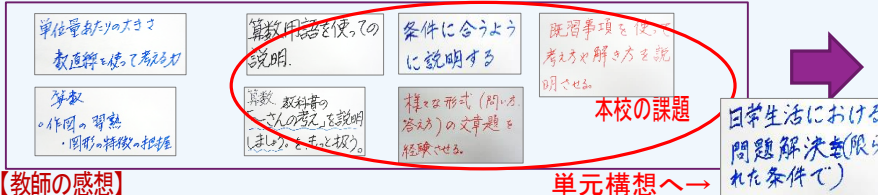
(2) 4月 全国学力・学習状況調査の採点と目標の再確認 (Plan)

● 教師が担任学年を中心とした4人グループになり、国語・算数について本校児童の採点(1人1問3~4名担当)を行い、本校児童の解答の状況を分析し、授業改善の提案について紙に書き出し、黒板に掲示する。それを分類、整理して、部会の手立て作成に活かした。【部会記録】

【授業改善への提案】

<学習内容に関するもの>

<説明力に関するもの>



【教師の感想】

- 記述式の問題は、採点基準に沿って採点するのも難しい。採点者によって、判断が違ふことはないのか。
- 本校の児童は、学習内容を理解しているが、学習用語を用いて、条件に沿った様式で説明する力が不十分である。
- 問われていることや指定されている条件までしっかりと問題を読んでいない傾向がある。

【部会記録】

議題	発言	まとめ	検討事項
算数教科書の『まじまじ』を説明	算数教科書の『まじまじ』を説明する。算数教科書の『まじまじ』を説明する。算数教科書の『まじまじ』を説明する。	算数教科書の『まじまじ』を説明する。算数教科書の『まじまじ』を説明する。算数教科書の『まじまじ』を説明する。	
条件に合うように説明する	条件に合うように説明する。条件に合うように説明する。条件に合うように説明する。	条件に合うように説明する。条件に合うように説明する。条件に合うように説明する。	
既習事項を使い考え方や解き方を説明明かす	既習事項を使い考え方や解き方を説明明かす。既習事項を使い考え方や解き方を説明明かす。既習事項を使い考え方や解き方を説明明かす。	既習事項を使い考え方や解き方を説明明かす。既習事項を使い考え方や解き方を説明明かす。既習事項を使い考え方や解き方を説明明かす。	

(3) 6月 校内研究における授業改善 算数科部会の取組 研究授業とリーフレットの作成・提案 (Do)

● 提案授業に合わせて、算数部会からリーフレットを提案した。

【部会提案リーフレット】

本校研究における
めざす子ども像
手立て1 単元構想
2 授業展開
3 課題設定と評価活動

算数部会における
めざす子ども像
算数科ならではの
本校の児童の実態

実態の中に調査結果を入れる

全国学力・学習状況調査の結果活用

(4) 9月 本校の課題である説明力をつけるための授業提案 (Do)

● 調査結果から明らかとなった本校の課題「式の意味について説明すること」についての授業研究会を行った。

【全国学力・学習状況調査の結果活用】

【望ましい説明のモデルを指導案に表記】

【分析による実態把握】

【分析した児童の実態を単元の指導に活かす】

【式の意味について数直線をさし示しながら全員での確かめ】

【数直線をかきながらの説明】

【グループでの説明】

(5) 11月 学年体制の算数の取組 (Do)

●学習指導案に調査結果とその分析を踏まえて、単元の指導について記述し、指導に活かす。

第5学年 算数学習指導案

日時 平成27年11月7日(火) 5校時

場所 5年級室 全学年組4

児童 男子56名、女子57名、計113名

小間 第1組 池本 第2組 池野 田原 (3組) 竹内 正太郎 (赤田)

1 単元名 「たのむを考えよう (1) 帯分数あたりの大きさ」(東京書籍)

2 単元について (1) 活用について
児童は、学力差が大きいため、5年生になってから、習熟度の考え方を教り入れて、学年全体が4つのグループに分かれ、帯分数の学習に取り組んでいる。先月の岩手県小学校学習定着度状況調査の結果によると、次のような結果が出た。

岩手県学習定着度状況調査質問紙結果活用

以上の結果から、全校的に算数に対して意欲的な児童が多いという。また、解きかたの意味をグループごとに説明する機会が増えることにより、児童は、どの意味を軸と取り決めて考えるようになってきている。問題を解いて説明することは難しいという児童が多い。本単元のレディネスの観点から、以下の通りである。

項目	正答率	正答率
①帯分数の大小を比べ、どちらが大きいのかを答えよ。	正答率 25%	
②同じノートが、Aの原では5冊、Bの原では7冊で910円です。1冊の値段は、どちらの原が安かったかを答えよ。	正答率 54%	
③7.5と1.5の差を、1桁の帯分数で表すことができるか。	正答率 39%	
④6.1で9.0がならべられるか。	正答率 69%	

分析した児童の実態を単元の指導形態に活かす

※児童についての既習事項や単元に関わる実態把握の中に、質問紙による児童実態把握やレディネス結果とその原因と思われることなどの記述がなされるようになった。

※学習状況と質問紙の結果を併用して活用することにより、児童を客観的に捉えることができ、これまでよりも多面的な実態把握ができるようになった。

※調査結果を、個々の結果だけでなく集団の捉えとして活用することにより、3クラス4グループに分けて学習する指導形態の工夫等、教師集団のチームとして指導を共有し合うようになった。

(6) 11月 岩手県学習状況調査の採点と目標の再確認 (Check→Action)

●調査結果などの資料をもとに部会ごとに本校児童の結果分析を行い、シートにまとめる。司会を5年担任が行い、児童の実態に応じた授業改善に結び付けよう意見を求めた。全体交流においてそれぞれの教科より授業改善に結び付けたいところを発表し、研究主任が、どの教科にも共通していることをまとめた。

【調査結果の分析に用いた資料】

- ・平成27年度岩手県小学校学習定着度状況調査問題用紙 ・解答用紙 (各教科) ・正答一覧表 ・児童質問紙調査問題用紙 質問紙集計表
- ・小間正答率一覧表 ・箱ひげ図 ・正答数度数分布グラフ ・各教科領域等比較グラフ ・調査結果の解釈等に関する留意事項・用語説明
- ・「平成25・26年度岩手県学習定着度状況調査結果報告書<授業改善の手引き>」・「よくわかる国語の授業」(県南教育事務所 国語科)
- ・「算数科における授業改善の視点」(平成27年度 岩手県総合教育センター 小学校算数研修講座資料)

【算数 調査結果の分析】

- ・グラフの分布状況は、山が2つできている。平均正答率・中央値・最頻値・標準偏差 (略)
- ・質問紙との相関をみると、「算数が好き」「内容が分かる」について肯定的な意見が多い。習熟度を加味した指導形態をとっている効果が表れていると考えられる。
- ・本校の児童がよくできているのは、「帯分数の加法」である。また、「無答が少ない」こともよい。
- ・本校の児童がよくできていないところは、「小数のわり算」、「違いに目を向けて解決すること」「図形の対角線」、「合同条件」などである。
- ・授業改善に結び付けたいところは、算数の学習用語を使った説明や条件に合った説明であり「やる」「これ」「あれ」のようなあいまいな言葉で説明しないことである。また、正しい方法だけを理解しているのは不十分で、正しくない方法や考え方についても、なぜ正しくないのか理解し、説明することが求められている。

【調査結果の分析シート】

算数科		教科名
1 調査結果	1 分析結果	総合的分析・評価
①グラフの分布状況 (形状)		
②平均値・標準偏差		
③中央値		
④最頻値		
⑤標準偏差		
⑥質問紙結果と相関していること		
⑦教科の強みや弱みについて		
強み	内 容	
本校の児童がよくできているところ		
本校の児童がよくできていないところ		
⑧授業改善に結び付けたいところ		

※本校5学年は、児童の実態により、学年の算数の時間割をそろえ、3C4Tの学習形態をとっている。(参照:5学年学習指導案)
 ※4月校内研究会の分析と同内容である。本校の課題が、テストを受けた6年生、5年生だけの問題ではなく、どの学年でも、重点を置いて指導していく必要があることを確認することができた。



【部会ごとの分析】



【部会提案】



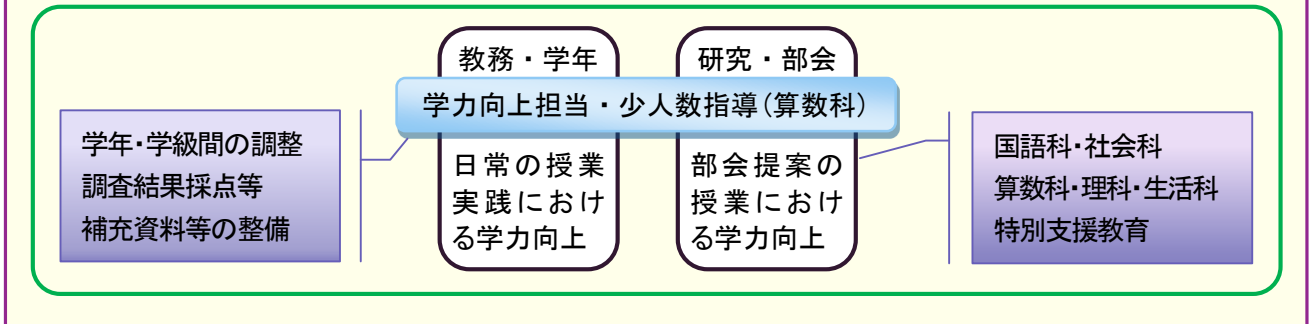
各教科に共通すること

- ・実感を伴って理解させる、学習環境を整えて学習した内容は定着している。
- ・様式や条件に応じて説明すること、関連させて考えさせることをもと授業に取り入れていきたい。

2 確かな学力保障に向けて、学力向上担当・少人数指導担当の役割を明確にし、学年部会と教科部会が連携をして児童の指導にあたった。

- 職員会議の研究部提案の中において、少人数指導担当より授業の進度や学習内容の定着に向けての取組について提案し、全校の指導体制をその都度確認していく。
- 学力向上担当・少人数指導担当が、学年部会と教科部会をつなぐパイプ役になることにより、全校体制で児童の学力の向上に取り組むことができた。

【連携図】



3 小中交流会、中学校拡大校内研への参加による、学習面についての話題を共有する場を設定した。

- 小中交流会において、授業参観と、児童生徒の学習の話題について交流した。
 - 6月 新入生テスト実施後中学校1年生の授業参観をし、担任相互の引継ぎも行うことができた。
 - 11月 小学校6年生授業参観と、新入生テスト結果(本校卒業生分)を踏まえて、協同的に学ぶ学習についてのお互いの情報交流や、中学校から「中学入学にあたって身につけてほしい20の学力」「中学生になるための学習と生活のコツ」についての資料の提示があった。また、新入生学習状況調査結果から、本校で今後付けていくべき課題は、「ローマ字表記」「都道府県名」などの各教科の学習内容の定着とともに、「(複合図形の体積の求め方)を考え、説明することができる」ような「考えを表現し、伝え合うなどの学習活動」をさらに積極的に取り入れていくことであると考えられる。
- 中学校の拡大校内研究会への授業参観や研究会への参加とその伝講を通して、中学校へ向かうまでに、課題に向かって主体的・協同的に学び合う学習、既習事項や生活経験をもとにしながら自分たちの力で、未習の難しい問題にも向かおうとする探究的な態度を育てていく必要があると考えている。

【成果】

- 校内研究会において調査結果の採点や分析を共に行うことにより、児童の実態を客観的・多面的に捉え、それに応じた指導の手立てについて学年や教科部会ごとに話し合い、指導に役立てることができた。
- 学習の目標・振り返りについては、岩手県学習状況調査の質問紙から、教師は意識して授業しているものの、まだ児童自身の意識としては十分に達成していないと考えられるため、今後いっそう児童自身の問題意識をもとにした課題設定や、まとめ、振り返りをしていきたいと考える。
- 算数科部会を中心に、本校の課題である数学的な考え方の観点や数量関係の領域についての学力を保障するために、考えを説明する力を育てようとして取り組んできた。望ましい説明のしかたがどのようなものなのかについて、教師自身が考えることにより、子どもの説明も、徐々に、考えの順番、式や作業の順を追って説明する話し方から、結論と根拠、式の意味や図等を関連付けた説明など論理的な説明力が向上してきている。今後も、他者の考えを説明したり、異なる考えを比較・検討したり、式・図などを関連させて説明する活動をより多く取り入れていく必要があると考える。
- 学力向上担当・少人数指導担当は、各学年の調査の採点や補充指導、学習プリント等の整備など担任を支え、担任間や学年間をつなぎ、同じ歩調で児童の指導にあたることができた。
- 授業参観を踏まえた中学校との交流は、小学校のゴールとして目指したい姿が明らかになり、自校の児童への指導に活かすことができた。